

## 略年譜

間々田 孝夫

### 学 歴

- 1970年3月 東京都立西高等学校卒業
- 1970年4月 東京大学教養学部文科Ⅲ類入学
- 1974年3月 東京大学文学部社会学科卒業
- 1974年4月 東京大学大学院社会学研究科修士課程入学
- 1976年3月 同上 修了
- 1976年4月 東京大学大学院社会学研究科博士課程入学
- 1979年3月 同上 単位取得の上退学

### 職 歴

- 1981年4月 金沢大学文学部専任講師（1984年3月まで）
- 1984年4月 金沢大学文学部助教授（1989年3月まで）
- 1989年4月 立教大学一般教育部助教授（1992年3月まで）
- 1992年4月 立教大学一般教育部教授（1995年3月まで）
- 1995年4月 立教大学社会学部教授（2017年3月まで）
- 2003年4月 教務部副部長（2005年9月まで）
- 2005年4月 大学院社会学研究科社会学専攻博士課程後期課程主任（2006年3月まで）
- 2007年4月 大学院社会学研究科応用社会学専攻博士課程後期課程主任（2008年3月まで）
- 2008年4月 現代文化学科長（2009年3月まで）
- 2009年4月 社会学部長兼社会学研究科委員長（2013年3月まで）
- 2010年4月 社会情報教育研究センター長（2013年3月まで）
- 2014年4月 人権・ハラスメント対策センター長（2017年3月まで）

2017年4月 立教大学名誉教授

### 所属学会

- 1978年～ 日本社会学会
- 1980年～ 経済社会学会（現会長）
- 1981年～ 関西社会学会
- 1985年～ 生活経済学会
- 1992年～ 日本社会心理学会

### 学外活動歴

- 1976～1994年 郵政省郵便貯金に関する調査研究会会員（初期は研究員）
- 1982～1995年 郵政省簡易保険・郵便年金に関する調査研究会会員
- 1998～2002年 中小企業事業団需要動向調査食生活編総合検討会委員
- 2001～2006年 家庭裁判所調査官試験委員会臨時委員
- 2001～2006年 簡易保険文化財団理事
- 2003～2006年 郵政総合職採用試験専門委員
- 2003年～ 簡易裁判所判事選考委員会委員

## 業 績

### 【単行本】

#### （単著書）

- 『行動理論の再構成——心理主義と客観主義を超えて』 福村出版 1991
- 『消費社会論』 有斐閣 2000
- 『消費社会のゆくえ——記号消費と脱物質主義』 有斐閣 2005
- 『第三の消費文化論——モダンでもポストモダンでもなく』 ミネルヴァ書房 2007
- 『21世紀の消費——無謀、絶望、そして希望』 ミネルヴァ書房 2016

#### （編著書）

- 『現代日本の階層意識』（1995年SSM全国調査報告書第6巻）文部省科学研究費特別推進研究成果報告書 1998
- 『ポスト・グローバル消費社会の動態分析——脱物質主義化を中心として』 文部科学省科学研究

費 基盤研究 (B) 研究成果報告書 2013

『ポスト・アメリカ化時代の消費社会研究——日中同時調査に向けて』立教大学学術推進特別重点資金研究成果報告書 2015

『消費社会の新潮流——ソーシャルな視点 リスクへの対応』立教大学出版会 2015

#### (共著書)

『社会システムと人間』(中山慶子、渡辺秀樹、松本三和夫、三重野卓と共著) 福村出版 1987

#### (共編著書)

『日本社会の新潮流』(直井優、盛山和夫と共編著) 東京大学出版会 1993

『日本人の貯蓄——行動と意識』(富永健一と共編著) 日本評論社 1995

#### (分担執筆)

「社会変動のメカニズム」安田三郎・塩原勉・富永健一・吉田民人編『社会変動』(基礎社会学第V巻) 55-77頁 東洋経済新報社 1981

「混住化社会における住民ニーズ」二宮哲雄・中藤康俊・橋本和幸編『混住化社会とコミュニティ』289-326頁 御茶の水書房 1985

「社会変動」碓井崧・丸山哲央・大野道邦・橋本和幸編『社会学の焦点を求めて』232-257頁 アカデミア出版会 1986

「日本経済の変動と『中』意識——成長説と平等化説の検討」1985年SSM全国調査報告書第2巻『階層意識の動態』43-70頁 1988

「金沢市民の意識構造」二宮哲雄編『金沢——伝統・再生・アメニティー』307-326頁 御茶の水書房 1991

「社会変動」碓井崧・丸山哲央・大野道邦・橋本和幸編『社会学の理論』267-281頁 有斐閣 2000

「自分はどこにいるのか——階層帰属意識の解明」海野道雄編『公平感と政治意識』(『日本の階層システム』シリーズvol.2) 61-81頁 東京大学出版会 2000

「消費社会と文化」今田高俊編『産業化と環境共生』97-129頁 ミネルヴァ書房 2003

「経済と社会システム」社会福祉士養成講座編集委員会編『社会理論と社会システム』69-80頁 中央法規出版 2009

「消費は世界を変える！」高校生のための社会学編集委員会編『未知なる日常への冒険——高校生のための社会学』148-156頁 ハーベスト社 2009

「消費社会」富永健一監修・経済社会学会編『経済社会学キーワード集』188-191頁 ミネルヴァ書房 2015

#### 【論文等】

「経済行動への社会的アプローチ——効用理論との比較を通じて」『社会学評論』29巻1号 16-30頁 1979

「貯蓄・消費に関する規範的意識の分析——貯蓄行動との関連を中心として」『国民生活研究』19巻3号 13-36頁 1979

「日本人の貯蓄意欲——社会調査による分析」(友枝敏雄と共著)『貯蓄と経済』130号 50-65頁 1981

「産業間社会移動の分析——1975年SSM調査を用いて」『金沢大学文学部論集』(行動科学科篇)

- 2号 59-74頁 1982
- 「社会調査データの基礎解析用プログラム——MOPシステムの解説」『金沢大学文学部論集』（行動科学科篇）4号 41-99頁 1984
- 「八〇年代の消費者意識を探る——経済社会学の視点から」『ESP』（経済企画協会）144号 43-47頁 1984
- 「経済社会学の方法——『経済についての社会学』としての経済社会学」経済社会学会編『経済社会学の着礎』（経済社会学会年報7）27-64頁 1985
- 「郵送調査の可能性」（西村雄郎と共著）『現代社会学』12巻1号 120-145 1986
- 「社会行動の分析における『意識』」『金沢大学文学部論集』（行動科学科篇）7号 63-123頁 1987
- 「社会行動の分析における『意識』（続）」『金沢大学文学部論集』（行動科学科篇）8号 59-81頁 1988
- 「社会行動と環境」『金沢大学文学部論集』（行動科学科篇）9号 39-83頁 1989年
- 「消費社会の変容と発展——脱大衆社会論の検討」経済社会学会編『発展の現代理論』（経済社会学会年報11）119-137頁 1989
- 「日本の貯蓄と文化・社会的要因」『フィナンシャル・レビュー』（大蔵省金融財政研究所）25号 89-111頁 1992
- 「貯蓄意識の動向——5回のSBC調査から」『生活経済学研究』（生活経済学会）11巻 133-156頁 1995
- 「消費者批判論の視点」『応用社会学研究』（立教大学社会学部）38号 23-39頁 1996
- 「価値観の異なる『隣人』」『経済セミナー』505号 18-21頁 1997
- 「消費社会の現代的変容と生協理念」『生活協同組合研究』（生協総合研究所）364号 5-10頁 2006
- 「グローバル化の中の『和風』——変容する消費嗜好の実証分析——」（寺島拓幸と共著）『応用社会学研究』（立教大学社会学部）49号 117-135頁 2007
- 「21世紀の消費動向と階層格差」『経済社会学会年報』29号 25-28頁 2007
- 「ポストモダンと高度消費社会——1980年代は転換期だったのか？」『神奈川大学評論』60号 68-75頁 2008
- 「『第三の消費文化』の概念とその意義」『応用社会学研究』（立教大学社会学部）53号 21-33頁 2011
- 「3.11後の生活者と市場の変化」『Marketing Researcher』（日本マーケティングリサーチ協会）116号 10-15頁 2011
- 「第三の消費文化と現代資本主義」『フォーラム現代社会学』（関西社会学会）11号 90-99頁 2012
- 「東日本大震災の広汎で多様な被害——自由回答式質問による分析」『応用社会学研究』（立教大学社会学部）55号 27-41頁 2013
- 「消費者行動の変化——情報行動に注目して」（特集2 消費者保護を問う）『都市問題』（後藤・安田記念東京都市研究所）104巻10号 49-56頁 2013
- 「仙台市民の被災者意識」『生活と防災についての仙台仙北意識調査報告書——震災被害と社会階層の関連』（立教大学学術推進特別重点資金東日本大震災・復興支援関連研究成果報告書）21-44頁 2014
- 「『真物質主義』の担い手は誰か」（遠藤智世と共著）『応用社会学研究』（立教大学社会学部）56号 47-61頁 2014

- 「中国・上海における消費文化の構造」『ポスト・アメリカ化時代の消費社会研究——日中同時調査に向けて』（立教大学学術推進特別重点資金研究成果報告書）7-22 頁 2015
- 「社会調査の意義と課題」『個人金融』（ゆうちょ財団）11 巻 1 号 12-20 頁 2016
- 「オレゴン州ポートランドにおける持続可能な消費文化」（寺島拓幸、野尻洋平と共著）『応用社会学研究』（立教大学社会学部）59 号 23-38 頁 2017
- 「コト消費という謎」『セミナー年報 2016』（関西大学経済・政治研究所）163-173 頁 2017

### 【調査報告等】

- 『日本人の貯蓄行動・貯蓄意識と郵便貯金』（郵政省委託調査）郵便貯金に関する調査研究会 1978
- 『「安定成長下における貯蓄消費規定要因に関する」委託調査結果報告書』（経済企画庁委託調査）日本リサーチ総合研究所 1978
- 『貯蓄行動・貯蓄意識と郵便貯金』（郵政省委託調査）郵便貯金に関する調査研究会 1983
- 『生活設計に関する国民の意識』（郵政省委託調査）国営任意生命保険の将来展望に関する調査研究会 1985
- 『第 3 回貯蓄行動・貯蓄意識に関する調査報告書』（郵政省委託調査）郵便貯金に関する調査研究会 1987
- 『国民の生活設計意識の変化と生命保険事業への期待』（郵政省委託調査）郵政省簡易保険局 1988
- 『第 4 回貯蓄行動・貯蓄意識に関する調査報告書』（郵政省委託調査）郵便貯金に関する調査研究会 1991
- 『生活設計に関する国民の意識調査』（郵政省委託調査）簡易保険・郵便年金に関する調査研究会 1991
- 『生活設計に関する国民の意識・実態調査（第 4 回 LBC 調査報告）』（郵政省委託調査）簡易保険に関する調査研究会 1993
- 『第 5 回貯蓄行動と貯蓄意識に関する調査報告書』（郵政省委託調査）郵便貯金に関する調査研究会 1994
- 『生活設計に関する国民の意識と実態——第 5 回 LBC 調査の分析』（郵政省委託調査）郵政省簡易保険局 1996
- 『第 6 回貯蓄行動と貯蓄意識に関する調査報告書』（郵政省委託調査）貯蓄行動と貯蓄意識に関する調査研究会 1998
- 『生活設計に関する国民の意識調査』（郵政省委託調査）郵政省簡易保険局 1999
- 『簡易保険受給者満足度調査報告書』（東京簡易保険事務センター委託調査）東京簡易保険事務センター 1999
- 『小学校におけるラジオ体操の実態調査報告書』（簡易保険加入者協会委託調査）立教大学社会学部間々田研究室 2005
- （上記調査すべてにおいて主要な調査設計担当者および報告書執筆分担者となった）

### 【その他】

#### （事典・辞典執筆）

- 『戦後史大事典』（佐々木毅ほか編）三省堂 1991
- 執筆項目：「エンゲル係数」「家庭電化時代」「3C」「消費・消費意識」「耐久消費財」「貯蓄・貯

- 蓄意識」「洋式化」
- 『ブリタニカ国際大百科事典』（フランク・B・ギブニー編 第3版）TBSブリタニカ 1995  
執筆項目：「行動」
- 『福祉社会事典』（庄司洋子ほか編）弘文堂 1999  
執筆項目：「SSM調査」「消費社会」「消費性向」
- 『岩波小辞典—社会学』（宮島喬編）岩波書店 2003  
執筆項目：「移動レジーム」「SSM調査」「エリート」「階級」「階級意識」「階級帰属意識」「階級闘争」「階層」「階層間移動」「希少性」「支配階級」「社会移動」「社会的不平等」「職業階層」「所得再分配」「人口移動」「地位の一貫性、非一貫性」「中流意識」「所有」「産業社会論」「脱工業社会」「依存効果」「消費社会」「消費者行動」「消費者の権利」「マーケティング」「意思決定」「一次元的尺度」「オペレーションズリサーチ」「回帰分析」「ガットマン尺度」「クラスター分析」「グループ・ダイナミックス」「ゲーム理論」「コーホート分析」「社会統計学」「数理社会学」「数量化」「正規分布」「相関係数」「態度尺度」「多変量解析」「統計的検定」「統計的方法」「パス解析」「標準偏差」「評定尺度」「ブードン、R.」「偏相関係数」「定量分析と定性分析」「投票行動」「政治意識」「浮動層と浮動票」「無党派層」「組織」「組織文化」「組織論」「余暇」「国内総生産・国民総生産」「政策科学」「センサス」「ソシオメトリー」「国民性調査」「社会調査」「イノベーション」「機能集団」「交換理論」「行動科学」「コンティンジェンシー理論」「社会統制」「生産様式」「ダイアド」「高田保馬」「中範囲の理論」「道具主義」
- 『エネルギーの事典』（日本エネルギー学会編）朝倉書店 2009  
執筆項目：「グリーンコンシューマリズム」「価値観・ライフスタイルの変遷」
- 『現代社会学事典』（大澤真幸・吉見俊哉・鷲田清一編）弘文堂 2012  
執筆項目：「サービス産業」「モノ・カルチャー」「意識産業」

## （書評）

- 春日淳一著『家族の経済社会学——パーソンズとルーマンにひきよせて』（文真堂 1984）  
『関西大学経済論集』36巻6号 193-200頁 1987
- 藤井淑禎著『清張ミステリーと昭和三十年代』（文芸春秋新社 1999）  
『立教大学日本文学』83号 85-86頁 2000
- ジョージ・リッツァ著 正岡寛司監訳『マクドナルド化する社会』（早稲田大学出版部 1999）  
『経済社会学会年報』22号 170-171頁 2000
- 真鍋一史著『国際比較調査の方法と解析』（慶應義塾大学出版会 2003）  
『社会学評論』54巻4号 462-463頁 2004
- 大橋照枝著『「満足社会」をデザインする第3のモノサシ』（ダイヤモンド社 2005）  
『経済社会学会年報』28号 273-274頁 2006
- 渡辺深編『新しい経済社会学——日本の経済現象の社会学的分析』（ぎょうせい 2008）  
『経済社会学会年報』30号 194-195頁 2008
- 田村正紀著『消費者の歴史——江戸から現代まで』（千倉書房 2011）  
『MJ』（=『季刊マーケティングジャーナル』）（日本マーケティング協会）124号 137-138頁 2012
- 吉川徹著『現代日本の「社会の心」——計量社会意識論』（有斐閣 2014）  
『社会学評論』66巻1号 152-153頁 2015

(論文翻訳)

Talcott Parsons 東京講演「社会システム理論と組織理論」(友枝敏雄と共訳)『現代社会学』  
7巻1号 184-203頁 1980

(一般雑誌への寄稿等)

- 「豊田商事事件と世代ギャップ」『生活情報いしかわ』(石川県県民生活局県民生活課/生活科学センター)6号 2-3頁 1983
- 「グルメは時代に即した先駆的試み」『自動車とその世界』(トヨタ自動車広報部)207号 47-49頁 1984
- 「意識調査に見る昭和60年代の預金者—郵便貯金をめぐって—(上)」『郵便貯金』(郵便貯金振興会)37巻9号 20-25頁 1987
- 「意識調査に見る昭和60年代の預金者—郵便貯金をめぐって—(下)」『郵便貯金』(郵便貯金振興会)37巻10号 14-21頁 1987
- 「黄金時代の経済がもたらすもの—経済の社会的機能を考える—」『郵便貯金』(郵便貯金振興会)39巻3号 11-19頁 1989
- 「何が総中流だ!?! 『新不満層』はもう我慢できない」『現代』1989年7月号 294-301頁 1989
- 「どうして『欲しいものがない』のか?」『生活起点』(セゾン総合研究所)31号 21-26頁 2000
- 「消費社会の現在」(36回連載)『生活起点』(セゾン総合研究所)32-67号 2001-2003
- 第1回「消費社会論の誤解と誤算」32号 33-35頁 2001年1月
- 第2回「ステータスの追求と消費社会」33号 32-34頁 2001年2月
- 第3回「『機能的消費』の時代は終わったか?」34号 33-35頁 2001年3月
- 第4回「『記号的消費』とは何だったのか?」35号 38-40頁 2001年4月
- 第5回「消費多様化論の混迷」36号 29-31頁 2001年5月
- 第6回「個性的消費という難題」37号 40-42頁 2001年6月
- 第7回「プロシューマーの夢と現実」38号 43-45頁 2001年7月
- 第8回「消費者はなぜ自ら『生産』するのか?」39号 38-40頁 2001年8月
- 第9回「『ゆとり消費』考」40号 30-32頁 2001年9月
- 第10回「『消費時間』をどう評価するか?」41号 32-34頁 2001年10月
- 第11回「社会的消費への注目」42号 32-34頁 2001年11月
- 第12回「選択的な社会的消費のすすめ」43号 28-30頁 2001年12月
- 第13回「消費社会と文化」44号 25-27頁 2002年1月
- 第14回「文化を妨げた文化」45号 35-37頁 2002年2月
- 第15回「脱消費社会的文化は可能か?」46号 43-45頁 2002年3月
- 第16回「情報消費と生活の豊かさ」47号 30-32頁 2002年4月
- 第17回「もう一つの情報社会」48号 35-37頁 2002年5月
- 第18回「デフレと価格錯覚」49号 33-35頁 2002年6月
- 第19回「デフレと駄菓子屋消費文化」50号 33-35頁 2002年7月
- 第20回「消費社会論的常識の限界」51号 46-48頁 2002年8月
- 第21回「消費社会と消費ビジョン」52号 25-27頁 2002年9月
- 第22回「モノの限界と消費社会」53号 37-39頁 2002年10月
- 第23回「身体への関心と物的消費」54号 33-35頁 2002年11月

- 第24回「モノ-身体関係の崩壊」55号 24-26頁 2002年12月  
 第25回「レジャーとモノ消費の微妙な関係」56号 34-36頁 2003年1月  
 第26回「日本のレジャー文化の可能性」57号 30-32頁 2003年2月  
 第27回「ウサギ小屋を好む!?日本人」58号 40-42頁 2003年3月  
 第28回「住文化の日本的展開」59号 34-36頁 2003年4月  
 第29回「フロンティアとしての『食』」60号 34-36頁 2003年5月  
 第30回「意のままにならぬ『衣』」61号 36-38頁 2003年6月  
 第31回「『こころの時代』と消費」62号 35-37頁 2003年7月  
 第32回「モノとこころの不協和音」63号 35-37頁 2003年8月  
 第33回「消費社会と自然」64号 33-35頁 2003年9月  
 第34回「グリーンコンシューマリズムと自然の消費」65号 30-32頁 2003年10月  
 第35回「脱物質主義という現実」66号 33-35頁 2003年11月  
 第36回「脱物質主義と消費社会の行方」67号 35-37頁 2003年12月  
 「グリーンコンシューマーのこれまでとこれから」『TRI VIEW』（東急総合研究所）15巻8号  
 10-15頁 2001  
 「今、消費者の価格・品質感とは？」（月例セミナー講演記録）『消費&マーケティング』（日経産  
 業消費研究所）223号 62-65頁 2003  
 「価値観の多様化と行動の変化」（荒井文子、上村和之、江上節子との座談会）『運輸と経済』  
 （財団法人運輸調査局）64巻6号 4-14頁 2004  
 「グリーンコンシューマーと大学教育」『グリーンコンシューマー東京ネット』（グリーンコン  
 シューマー東京ネット）7号 1頁 2002  
 「社会的消費者が国を変える」（12回連載、口述筆記）『Fole』（みずほ総合研究所）76-87号  
 各号とも38-39頁に掲載 2009  
 Vol.01「ブランドイメージにお金をかける企業を消費者が選ぶ時代は終わった」76号 2009  
 年1月  
 Vol.02「常に新しい欲望を喚起する企業の商品ばかりを選ばない」77号 2009年2月  
 Vol.03「お金が減っても、時間があれば余暇の中身は充実する」78号 2009年3月  
 Vol.04「スローライフ的な消費文化は 犯罪の抑止につながる」79号 2009年4月  
 Vol.05「自動車を『あえてもたない』若者の選択はまっとうだ」80号 2009年5月  
 Vol.06「『便利でちょっと楽しい』だけのコンビニ的消費は廃れていく」81号 2009年6  
 月  
 Vol.07「ファッションと同じように携帯電話を買うのはムダである」82号 2009年7月  
 Vol.08「省エネ製品やエコバッグより豊かさの概念を変えていこう」83号 2009年8月  
 Vol.09「消費欲もやせたい欲も満たす『カロリーゼロ』現象を考える」84号 2009年9月  
 Vol.10「少子高齢化に合わせてモノも消費も『減らす』のが理想」85号 2009年10月  
 Vol.11「大量消費のために働く一億総中流の時代は終わった」86号 2009年11月  
 最終回「自然食は『やせ我慢』から『ライフスタイルの一つ』になる」87号 2009年12  
 月  
 「消費社会と快樂のゆくえ——真物質主義から第三の消費文化へ」（口述筆記）『談』（たばこ総  
 合研究センター）97号 39-61頁 2013